



独立行政法人海技教育機構

なみ かつ

国立波方海上技術短期大学校



大広域MAP



中広域MAP



詳細MAP

独立行政法人海技教育機構 (JMETS)

国立波方海上技術短期大学校

〒799-2101 愛媛県今治市波方町波方甲1634-1
TEL 0898-41-5278(教務課) FAX 0898-41-5038
e-mail info-namikata@jmets.ac.jp
URL <https://www.jmets.ac.jp/namikata/>



(学校HP)



(進学情報)

Bridge of the DREAMS 2023

来島海峡から始まる船乗りへの夢

船乗りへの夢を叶える教育制度

本校は、国内航路の貨物船や客船を運航する船員を養成する国土交通省所管の教育機関です。
船を操縦する航海士と、その機関を運転する機関士、両方の資格を同時に取得でき、
大型練習船による9ヶ月の乗船を含む2年間の短期間で、優秀な船員を育てています。

最短でプロの船員を養成する学校
 ◎2年間という短期間で「航海士」「機関士」を養成 ◎四級海技士免許(航海・機関)の両方取得



航海士

航海士は、船を安全に航海させるとともに荷役に関する職務を行います。一等航海士～三等航海士までのランクがあり、その上には船長がいます。



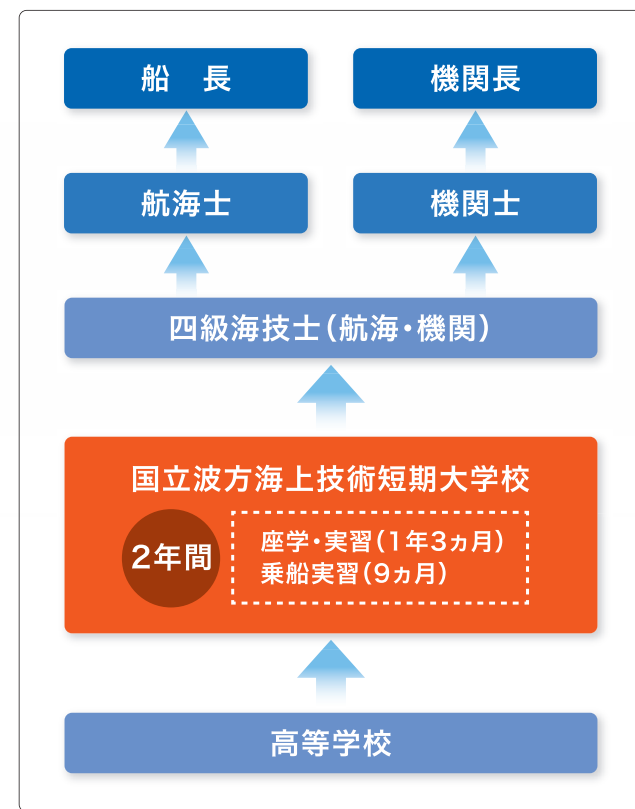
機関士

機関士は、船を動かす機関や他の機器の運転、保守、整備に関する職務を行います。一等機関士～三等機関士までのランクがあり、その上には機関長がいます。

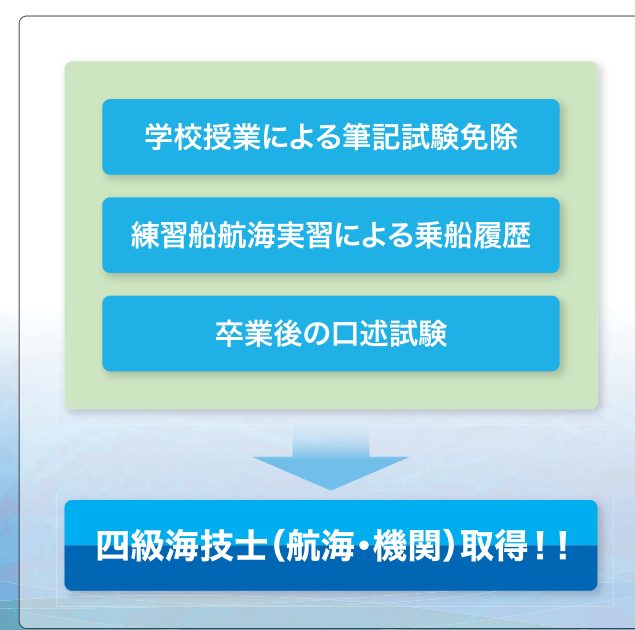
教育科目

	科目	単位	
必修科目	航海	8	
	運用	5	
	海事法規	3	
	海洋気象	1	
	電気電子工学	4	
	機械工作	2	
	計測制御	2	
	情報技術	1	
	船用機関	7	
	内航海運実務	1	
	海事英語	1	
	実習	航機実技	4
		海上実習	7
総合訓練		1	
選択科目	海運実務英語	1	
	航海特論	0.5	
	機関特論	0.5	
単位認定科目	卒業研究	1	
	乗船体験実習	1	
	三級海技士試験・筆記	3	
特活	特別教育活動	1	
	練習船実習航海	9ヵ月	
	計	55単位(9ヵ月)	

プロの船員を目指すまでの流れ



四級海技士取得までの流れ



夢は叶えるためにある

瀬戸内海を縦断する「しまなみ海道」には、島々を結ぶ10本の橋が架かっています。その「しまなみ街道」のもとに位置する本校は、航海士や機関士などの船舶職員を目指す人々が船舶運航に関する専門的な知識や技術を学び、海技士の資格を取得するための学校です。橋の向こうに目的地があるように、本校での学びの先には、「船員」という夢があります。

来島海峡と日本最大の海事都市「今治」



校舎外観

本校の目前に広がる来島海峡は日本三大急潮流のひとつであり、海上交通の要衝となっています。この来島海峡で行う本校の海上実習では、多数の航路標識や通航船、航路の特殊な航法といった環境の中で極めて実践的な技術を学ぶことができます。また、本校がある今治市は、造船、船用工業、海運等の海事産業が集積している日本最大の海事都市であり、2年に1度、国際海事展「パリシップ」が開催されるなど、船員養成機関として恵まれた立地にあります。



校内練習船「くるしま」



大型練習船



造船所見学



実習棟



パリシップ2019

年間スケジュール

本校のカリキュラムは大きく分けて、学校における「座学・実技・実習」と、大型練習船による3ヶ月×3回の「練習船航海実習」で構成されています。1年次は主に学校でしっかりと基礎を学び、2年次は練習船での実習を通して現場の技術者に求められる実践的な知識や技術を習得します。

1年生

1年 前期

座学・実技・実習

4 ●入学式
●しまなみウォーク

5 ●球技大会

6 ●航海実技
●救命講習(心肺蘇生)

7 ●救命講習(海上訓練)

8 ●内航船乗船体験

9 ●救命講習
(船員災害防止協会)

夏季休業



航海実技
船乗りならできて当たり前のロープワーク、様々な結びや加工等の技術を習得します。



校内練習船「くるしま」
海上交通の要衝・来島海峡を舞台に船の運航全般にわたる実習を行います。



内航船乗船体験
1年生の夏休み中に、希望者はタンカーや貨物船、自動車専用船などの内航船に乗船し、職場体験をすることで、プロの船員の働く姿を通して船舶運航の実務や社会人としての心構えを学ぶことができます。夏休み明けには、乗船体験報告会を行って、自分たちが経験したことや船員から教わったアドバイスなどを共有しています。



救命講習(海上訓練)
船体を放棄し、水中に飛び込む場合に備えた訓練を行います。



座学
航海・機関に関し、四級海技士国家試験レベルの専門学を学びます。



練習船〈銀河丸〉
第1船目は、船内生活に慣れ、運航技術の基礎を学びます。



ARPA(アルパ)シミュレータ実習
操船シュミレーターで、レーダーや衝突回避操船を学びます。

1年 後期

座学・実技・実習

10 ●1日海上実習
●造船所見学

11 ●研修旅行

12 ●座学

練習船航海実習(第1船)

1 ●練習船航海実習(第1船)

2

3

2年生

2年 前期

練習船航海実習(第2船)

4 ●練習船航海実習(第2船)

5

6

7 ●1・2年生対面式
●就職先応募

8

9 ●就職試験

座学・実技・実習

夏季休業



練習船〈日本丸(左)／大成丸(右)〉
第2船、第3船では、帆船や内航用練習船より深度化した実習を行います。



機関当直
ディーゼル機関、ボイラ、発電機などを実際に運転して、取り扱い方法を学びます。



船内生活
実習中は、船が自分たちの家となります。共に過ごす仲間は家族のような存在です。

2年 後期

練習船航海実習(第3船)

10 ●練習船航海実習(第3船)

11

12

1 ●無線講習

2 ●来島マーチス見学

3 ●卒業式
●国家試験

座学・実技・実習



来島マーチス
来島海峡航路の航路管制などを行う、来島海峡海上交通センターを見学します。



卒業式
2年間の様々な思い出と新たな船出を祝して、大空へ「帽子投げ」を行います。



国家試験

卒業生は、卒業式の翌日から国家試験(口述試験)を受験します。本校の航海及び機関両方の最近5年間の合格率の平均は、99.1%となっており、非常に高い合格率を誇っています。合格すれば、晴れて四級海技士(航海・機関)の免許受有者となり、プロの船員の仲間入りを果たします。

座学・実技・実習

本校卒業後は、四級海技士資格を持って内航船に乗り組み、見習いの期間を経て、航海士や機関士として活躍します。バランスの取れた職業人としての能力を養うため、座学や実技、実習に加えて、乗船体験(インターシップ)制度や海事都市今治の立地を活かした造船所見学など、魅力あるカリキュラムを用意しています。

練習船航海実習

3ヶ月間の実習を3回行う練習船航海実習。この実習で、海上生活への適応力を養い、運航技術を体得します。



航海当直
船を実際に操船して操船技術や航海計器の取り扱い方法を学びます。

在校生インタビュー



可能性はみんなと広げられる

福岡県立須恵高等学校
普通科出身
令和3年度2年生 只限 雄貴

私は入学以前は企業の事務員として就労し、趣味以外に海に関わることはありませんでした。ある日、旅行先で知り合った方が25歳にして石油タンカーの船長でした。日本全国を巡る彼の姿は、私よりも気力に溢れて輝いていました。それから、海の仕事を初めて認識し、憧れを抱いたことがこの道を目指したきっかけです。

数ある学校の中で本校を選んだ理由は2つです。1つは、オープンキャンパス時にお会いした先輩方が、皆さんとても気さくで、これからの寮生活について居心地の良さを感じたこと。1つは国家試験合格率がとても高いことです。

私は30歳ですが、年上の学生もいます。また、私を含む年長者へ仲良く接しつつも、敬ってくれる学友ばかりです。これは本校のもつ魅力であり、規律ある生活規則から醸成された賜物なのだと感じます。私は上級海技士筆記試験に挑戦していますが、同じ志の学生も多く、苦楽を分かちあえる充実した生活を送っています。

船員への第一歩を共に

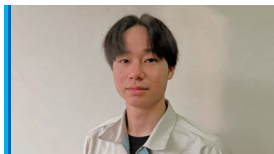
京都府立海洋高等学校
水産科(海洋工学科)出身
令和3年度1年生 今澤 侑飛

私が船乗りを目指したきっかけは高校の練習船に乗船し、操船する楽しさを知り、自分が知らない水平線の向こうに行きたいという思いを抱いたからです。そして高校で船員の勉強・実習を行うにつれて船についてもっと学びたいという気持ちが強くなったため本校を志望しました。

本校は世界で唯一の航法を採用している来島海峡が実習海域で、更に造船所も複数あるため、日頃から大型船を見ることが出来ます。また座学も多くの教科に分かれるためそれぞれの分野について細かく学ぶことができます。

学校生活では、学生の間ほとんどが寮に入っており、クラスを問わず仲を深めることができます。またほとんどの時間を学生と過ごすため、休日等も一緒に遊んだり、相談に乗ってもらったり充実した学校生活を送ることができています。

船員になるために必要な設備・学習内容が整ったこの学校で私達と一緒に勉強に励みましょう!



橋を渡る者たち



学びたい!を後押ししてくれる

兵庫県立社高等学校
体育科出身
令和3年度2年生 土居 采暉

私は高校2年生まで将来の仕事について明確な目標はありませんでした。しかし、高校3年生の時に本校を卒業し船員として活躍されている方と出会い、その方の話を聞くなかで、航海士に強く興味を抱き、本校への進学を決意しました。

本校は実習環境に恵まれ、複雑な操船が要求される来島海峡での海上実習を始め、操船シミュレーターも整備され、実技の能力を磨く設備が整っています。また、あまり馴染みのない船舶のエンジンや発電機等、難しい内容でも模型などを使って授業を進めて頂けるので、機関の知識も十分に深められます。

寮生活では規則正しい生活習慣や集団生活での協調性を育むことができ、船上での長期間の団体活動への準備期間として充実した日々を過ごし、気心の知れた友人にも恵まれました。

不安なことにもぶつかっても、先生や友人と一緒に考えてくれる本校で一緒に学びませんか。

悔いのない人生にしませんか??

神戸市立六甲アイランド高等学校
普通科出身
令和3年度1年生 岩崎 詩

私は入学前、港湾関係の公務員として勤務していました。公務員として安定した生活を送るつもりでしたが、ある日、外航船に乗船する機会があり、実際の船員の方から船の魅力や給料の良さなどの貴重なお話を伺うことができ、また、船橋からの景色や大きな主機関に魅せられたことから、安定を捨て、船員の道に挑戦しようと思えました。

本校を選んだ理由は、海の難所である来島海峡での実践的な海上実習や豊富な知識経験をもつ先生方の授業を受け、より深い知識技能を習得したいと考えたからです。さらに、本校は原則全寮制であるため、常に勉強に没頭できる環境であり、上級海技士試験にも挑戦しやすいと考えたからです。

入学してから数ヶ月経ちましたが、学生同士年齢関係なく仲が良く、私もたくさんの友人ができました。平日はしっかり学び、休日はしっかり遊ぶ。メリハリある充実した生活を送れています。

人生は一度きりです。船員に興味がある方!人生最期に後悔するくらいなら、この波方で充実した2年間を過ごしませんか?



海上からのメッセージ



父の背中があり、今の自分がある これからの夢はタンカー船の船長

香川県立小豆島高等学校 普通科出身
朝日海運株式会社勤務
平成25年度卒 板倉 惇

船乗りの父の姿を見て育ち、将来自分も船乗りになろうと思い「波方」に進学しました。「波方」を選んだ理由は、航海・機関両方の海技免状が取得できることに魅力を感じたからです。

学校生活で自分が成長した点は、寮生活を通してコミュニケーション能力が養えたことで、就職後の船内生活でも役に立ちました。

現在は、5,000kl積のガソリン・灯油・軽油を運ぶタンカー船で働いています。タンカー船は、船内生活に制限も多く、忙しく大変ですが、自分の乗りたかった会社の船で働き、日々新しいことを覚えて行くことに、とてもやりがいを感じています。

私の今後の目標はタンカー船の船長になることです。わからないことが多くありますが、それらをすべて理解して、優秀な船長になりたいと思います。

大きな船を自らの意志で操ることが できるダイナミックな仕事

玉川高等学校 普通科出身
南和海運株式会社勤務
平成29年度卒 本郷 駿介



現在は、コンテナ船に乗船しており、航海中の見張りや操船、気象観測、海図への位置記入等の航海当直を行っています。また、航海中、電源を必要とする冷凍コンテナを積載している場合には、そのコンテナの温度管理も行います。出入港作業では、係留索の準備、レットロープ投げ、アンカースタンバイなどを行っています。甲板員は週替わりで船首、操舵、船尾担当となるので、覚えなければいけないことがたくさんあります。荷役作業は、航海中コンテナが荷崩れを起こさないように、固縛作業を行います。固縛作業はコンテナが全て積み終わる頃に行うので、それまでは錆び打ちやペンキ塗りなどの船体整備の作業を行うこともあります。船員のやりがいは、私1人では決して動かすことのできない大きな船を、乗組員全員の力で動かして目的地まで安全に運航した時の達成感だと思います。今はまだ甲板員で、上司の指示の下で作業を行うことが多くありますが、甲板員の間でいろいろなことを学び、二等航海士、一等航海士となるにあたっては、甲板員から信頼される人になりたいと思っています。

夢を叶えた者たち



仕事に対する熱意は人一倍 特殊船のスペシャリスト

福岡県立筑前高等学校 普通科出身
イノガストランスポート株式会社勤務
平成23年度卒 福島 寛和

たった2年間という短い期間で、航海士・機関士両方の免状が取得できる「波方」に魅力を感じ入学しました。現在はエチレン船に乗船し、操機手として主にボイラーの保守整備を担当しています。エチレン船は、他の船に比べて再液化装置(冷凍機)があるぶん覚えることが多くなりますが、在学中に様々な知識と経験を持つ先生方から教わった事が役に立ち、やり甲斐も感じています。

職に就いたら、仕事に対して疑問や不安を感じた時に、その場で聞く習慣をつけることがとても大切だと思います。最初は点の集まりでも、点と点が繋がって一つの形が見えて来たとき仕事に対して自信が湧いてきます。毎日の仕事に対して目標を持って挑み、機器の小さな変化にも気がつく船乗りになれるよう自分自身を高めていきたいです。

大好きな海で日本経済を支える かけがえのない役割を果たしています

横浜創英高等学校 普通科出身
大和海運株式会社勤務
平成29年度卒 黒田 寧音



私は幼い頃、屋久島に住んでおり、自然豊かな環境で育ったため海が大好きでした。父親が漁師をしていたこともあり、私も将来は、船に乗って仕事がしたいと思い、来島海峡で実習ができる波方校の門をたたきました。

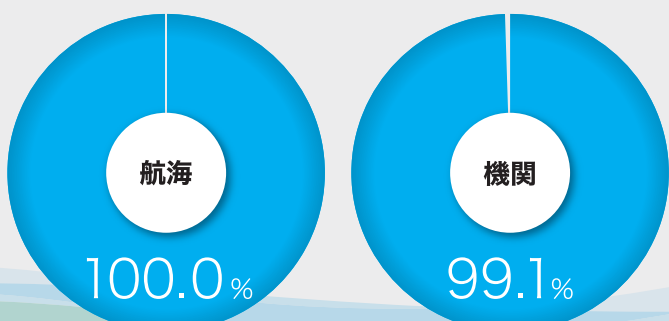
卒業後は、内航タンカーに乗船して、レギュラーガソリン、軽油、ハイオクガソリン、ジェット燃料、ナフサなどの油種を運んでいます。

荷役中は、乗組員全員が甲板に出て、5つあるタンクの油面監視を行いながら、バルブの開閉を手動で行っています。通常は3時間くらいかかりますが、油種によっては7時間かかる場合もあります。ほぼ毎日荷役があるので忙しいですが、積み揚げのラインを覚えることができるので勉強になりますし、日々やりがいを感じる事ができます。

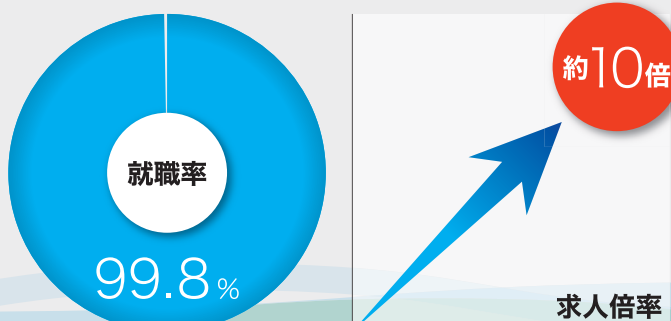
役職に関係なく、全ての仕事を満遍なく教えていただいているので、船員としてのスキルアップができています。船に興味がある人は、来島海峡で実習することできる波方校で、勉強することをお勧めします。

高い合格率と安定した就職率

国家試験合格率(2018年~2022年実績)

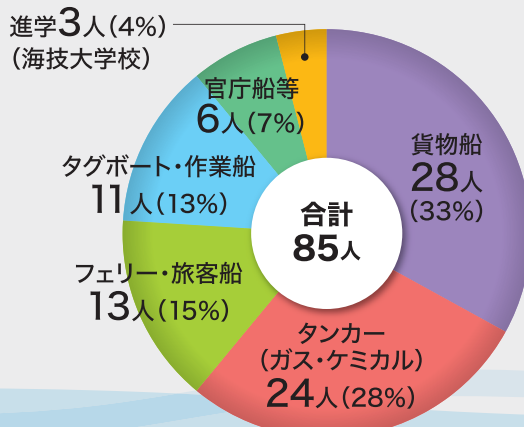


就職率(2018年~2022年実績)



(合格者数426名/受験者数426名) (合格者数422名/受験者数426名) (就職者数407名/就職希望者数408名)

卒業生進路の割合(2022年3月)



卒業生の進路

